

平成 30 年度 授業計画(シラバス)

学 科	理学療法科	授業科目区分(基専)	専門分野
授業科目名	理学療法評価概論	担当教官名	東 隆史
対象学生	1年生昼間部(I 部)	履修学期	後期
必修・選択の別	必修	授業回数	15回
授業のキーワード			
授業の目標及び期待される学習効果	<p>理学療法評価の考え方やその流れについて理解する。あわせて基礎的な検査技術(関節可動域測定法や形態計測)について理解をするとともに実技を通じてその技術を習得する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・理学療法評価の流れや考え方を理解する。 ・関節可動域測定法と形態計測についての知識を得る(国家試験レベルは最低限理解する)。 ・関節可動域測定法と形態計測についての技術を習得する(学生間で評価技術が行える程度は最低限できるようになる) 		
授業の概要	<p>技術を実施するに当たり必要な知識、実施方法を学科で行い、実技で技術の習得を図る。</p> <p>評価とは、評価の過程、トップダウンとボトムアップ 形態計測(上肢長・下肢長・断端長/周径) 関節可動域検査法</p>		
授業内容のレベル	初級レベル		
教科書・教材等	理学療法学テキストⅡ 理学療法評価法第3版 (神陵文庫)		
授業の形式、視聴覚機器の活用	講義形式と実技形式の併用		
成績評価の方法	筆記試験60% 実技試験30% 平常点10%		
担当教官から	<p>学科と実技を併用して行う。理学療法士として当たり前理解し、実施できることが求められる分野であるので積極的かつ能動的な態度で授業に参加することを強く望みます。</p> <p>そのための自主練習や自習は担当教員も積極的にフォローします。</p>		

平成 30 年度 授業計画(シラバス)

学 科	理学療法科	授業科目区分(基専)	専門分野
授業科目名	臨床運動学	担当教官名	稲原 健輔
対象学生	3年生昼間部	履修学期	通年
必修・選択の別	必修	授業回数	30回
授業のキーワード	運動学、運動障害分析、異常歩行		
授業の目標及び期待される学習効果	<p>理学療法の基本である人体の運動について、臨床的な姿勢や運動の評価、分析ができるようになる。また、異常歩行等の特徴的な姿勢、運動から問題点につながる基本的な知識の活用(解剖学、運動学、生理学)ができるようになる。さらに、各種疾患でよくみられる、姿勢や運動についての理解が運動学的に考察できるような思考プロセスを学ぶ。</p>		
授業の概要	<p>基礎運動学を基礎として(力学、バイオメカニクス、関節の構造と運動、基本動作)臨床的思考の基礎を学習する。 基本動作の分析、評価につながる知識、技術を学習する。また、歩行については各種の特徴的な異常歩行を理解して、実体験を基に他者へ伝えることも学ぶ。</p>		
授業内容のレベル	基本		
教科書・教材等	基礎運動学、臨床運動学		
授業の形式、視聴覚機器の活用	講義・実技		
成績評価の方法	定期試験、出席状況等から総合的に判断		
担当教官から	<p>基本的な理学療法評価・治療にあたり、理論・技術の基礎となるところが多いため、基礎運動学と合わせてよく学んで欲しい。</p>		

平成 30 年度 授業計画(シラバス)

学 科	理学療法科	授業科目区分(基専)	専門分野
授業科目名	理学療法評価概論	担当教官名	東 隆史
対象学生	1年生夜間部	履修学期	後期
必修・選択の別	必修	授業回数	15回
授業のキーワード			
授業の目標及び期待される学習効果	<p>理学療法評価の考え方やその流れについて理解する。あわせて基礎的な検査技術(関節可動域測定法や形態計測)について理解をするとともに実技を通じてその技術を習得する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・理学療法評価の流れや考え方を理解する。 ・関節可動域測定法と形態計測についての知識を得る(国家試験レベルは最低限理解する)。 ・関節可動域測定法と形態計測についての技術を習得する(学生間で評価技術が行える程度は最低限できるようになる) 		
授業の概要	<p>技術を実施するに当たり必要な知識、実施方法を学科で行い、実技で技術の習得を図る。</p> <p>(学習内容)</p> <p>評価とは、評価の過程、トップダウンとボトムアップ 形態計測(上肢長・下肢長・断端長/周径) 関節可動域検査法</p>		
授業内容のレベル	初級レベル		
教科書・教材等	理学療法学テキストⅡ 理学療法評価法第3版 (神陵文庫)		
授業の形式、視聴覚機器の活用	講義形式と実技形式の併用		
成績評価の方法	筆記試験60% 実技試験30% 平常点10%		
担当教官から	<p>学科と実技を併用して行う。理学療法士として当たり前理解し、実施できることが求められる分野であるので積極的かつ能動的な態度で授業に参加することを強く望みます。</p> <p>そのための自主練習や自習は担当教員も積極的にフォローします。</p>		

平成 30 年度 授業計画(シラバス)

学 科	理学療法科	授業科目区分(基専)	専門分野
授業科目名	臨床運動学	担当教官名	稲原 健輔
対象学生	3年生夜間部	履修学期	後期
必修・選択の別	必修	授業回数	15回
授業のキーワード	運動学、運動障害分析、異常歩行		
授業の目標及び期待される学習効果	<p>理学療法の基本である人体の運動について、臨床的な姿勢や運動の評価、分析ができるようになる。また、異常歩行等の特徴的な姿勢、運動から問題点につながる基本的な知識の活用(解剖学、運動学、生理学)ができるようになる。さらに、各種疾患でよくみられる、姿勢や運動についての理解が運動学的に考察できるような思考プロセスを学ぶ。</p>		
授業の概要	<p>基礎運動学を基礎として(力学、バイオメカニクス、関節の構造と運動、基本動作)臨床的思考の基礎を学習する。 基本動作の分析、評価につながる知識、技術を学習する。また、歩行については各種の特徴的な異常歩行を理解して、実体験を基に他者へ伝えることも学ぶ。</p>		
授業内容のレベル	基本		
教科書・教材等	基礎運動学、臨床運動学		
授業の形式、視聴覚機器の活用	講義・実技		
成績評価の方法	定期試験、出席状況等から総合的に判断		
担当教官から	<p>基本的な理学療法評価・治療にあたり、理論・技術の基礎となるところが多いため、基礎運動学と合わせてよく学んで欲しい。</p>		